

科目名	看護学概論		時期	1年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)回数	1単位(30時間)15回
科目の概要	看護を実践するために必要な、健康、看護の概念、理論、看護の役割を学ぶ。			
目標	1 看護の概念を学び、看護の本質を探究しその役割を理解する 2 看護の対象としての人間を理解する 3 健康の概念、捉え方について理解する 4 看護における倫理の必要性を理解する			
ディプロマポリシーとの関連	<input checked="" type="checkbox"/> 1.豊かな人間力 <input checked="" type="checkbox"/> 2.看護を実践する力 <input checked="" type="checkbox"/> 3.探求する力 <input checked="" type="checkbox"/> 4.連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護学概論 医学書院 看護職の基本的責務 定義・概念／基本法／倫理 日本看護協会出版会 看護覚え書 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会			
技術経路録 演習項目				
評価	筆記試験			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1	看護とは	1 看護の本質 3 看護の役割と機能	2 看護の定義	講義
2～3	看護の対象としての人間の理解	1 人間のこころとからだ 2 人間の「暮らし」の理解		講義・演習
4～5	人間の健康状態と生活	1 健康のとらえ方 3 国民のライフサイクル	2 国民の健康状態	講義
6	看護の提供者	1 職業としての看護 ・近代日本の看護 2 看護職の資格と養成にかかわる制度 3 看護職者の就業状況、継続教育とキャリア開発		講義
7	看護における倫理	1 現代社会と倫理 2 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 3 看護の本質としての看護倫理		講義
8	看護の提供の仕組み	1 サービスとしての看護 2 看護サービスの提供の場 3 医療安全と医療の質保証 4 看護の質の保証		講義
9～14	看護理論と概念	1 主な看護理論家の理論 2 ヘンダーソン「看護の基本となるもの」の読解 3 世界の看護の歴史とナイチンゲールの功績 4 ナイチンゲール「看護覚え書」の読解		講義・演習
15	終了試験			

科目名	看護過程		時期	1年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	看護過程の基盤となる理論と看護過程のプロセスを踏まえた展開方法を学ぶ。また、看護実践に必要な看護記録について、その法的根拠と看護記録の基礎を学ぶ。			
目標	対象の健康問題を解決するための看護過程について基本的知識・技術を修得する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア 基準看護計画 臨床でよく出合う看護診断と潜在的合併症 照林社			
技術経緯録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1~14	看護過程とは	1 看護過程の意義 ・5つの構成要素 2 看護過程展開の基盤となる考え方 1) 問題解決過程 2) クリティカルシンキング 3) リフレクション		講義
	看護過程の各段階と展開	3 看護過程の実際 1) アセスメント ・情報収集とアセスメントの進め方 ・ゴードンの機能的健康パターンの意味と分析の視点 2) 全体像の把握 3) 看護問題の明確化 4) 看護計画 5) 実施・評価		講義 事例を用いた 演習
	看護記録	4 看護記録 1) 看護記録とは ・看護記録の法的位置づけ ・看護記録の目的 ・叙述的経過記録 ・SOAP方式 2) 記録の保管・管理 ・記録(個人)情報の管理		講義
15	終了試験			
※講義順序、詳細な授業計画は授業開始時に配布				

科目名	共通基本技術		時期	1年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	看護技術の特徴やコミュニケーションの基本的な方法、医療における安全性、学習支援について、その意義を理解し、基本的な知識と技術を学ぶ。			
目標	1 看護技術および技術を学ぶ目的を理解する 2 人間関係成立のためのコミュニケーションの基本的な方法を理解する 3 医療における安全確保・安楽確保の意義と基本的な援助技術を修得する 4 学習支援の意義と方法を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 豊かな人間力 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 看護を実践する力 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 探求する力 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②, 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③, 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
技術経路録 演習項目	レベルⅠ スタンダードプリコーションに基づく手洗い、必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択・着脱、使用した器具の感染防止の取り扱い、感染性廃棄物の取り扱い、インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告、患者の誤認防止実施、体温調整の援助、安楽な体位の調整、安楽の促進・苦痛緩和のためのケア			
評価	筆語試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容	方法	担当講師
1~3	看護技術とは	1 看護技術の特徴・範囲 2 看護技術実践のための要素	専任教員 講義	専任教員 1
	コミュニケーション	1 コミュニケーションの意義と目的・構成要素・成立過程 2 関係構築に向けた基本技術と効果的な技術 3 コミュニケーション障害がある人への対応		
4~9	安全確保の技術	1 安全確保の基礎知識 2 感染防止 1)感染防止の基礎知識 2)標準予防策(スタンダードプリコーション) 3)感染経路別予防策 4)医療感染性廃棄物の取り扱い 3 転倒・転落防止 4 患者誤認防止	講義 演習 レベルⅠ 57.58.59 60.63.64 技術試験 レベルⅠ 57.58	専任教員 2
10	学習支援	1 看護における学習支援とは 2 学習支援の基本となる考え方と行われる場 3 健康状態の変化に伴う学習支援とその対象 個人 家族 集団	講義	専任教員 2
11~14	苦痛の緩和・安楽確保の技術	1 体位の保持(ポジショニング) 2 褥法 3 身体ケアを通じてもたらされる安楽 1)リラクゼーション法 2)熱布バックケア	講義 演習 レベルⅠ 29.69.70	専任教員 2
15	終了試験			

科目名	ヘルスアセスメント		時期	1年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	対象の健康状態を客観的かつ正確に把握するために、身体の情報を得てアセスメントする基本的な知識と技術を学ぶ			
目標	1 身体の情報収集の意義を理解し、その方法を修得する 2 収集した身体情報をアセスメントする意義を理解し、その方法を修得する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②, 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント アドバンス, インターメディカ			
技術経緯録 演習項目	レベルⅠ バイタルサインの測定、身体計測、フィジカルアセスメント			
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1・2	ヘルスアセスメントとは	1 ヘルスアセスメントがもつ意味 2 ヘルスアセスメントにおける観察 3 ヘルスアセスメントにおける重要な視点		講義
3	フィジカルアセスメント	1 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 2 フィジカルアセスメントに必要な技術 問診・視診・触診・聴診・打診 3 全身状態・全体印象の把握 4 身体計測の方法と意義		講義
4～9	バイタルサイン	1 バイタルサインの観察とアセスメント 1) バイタルサインとは 2) 測定方法とアセスメント ・意識レベル・体温・呼吸・脈拍・血圧・SPO2 モニター 3) バイタルサインの記録・報告		講義、演習 レベルⅠ 50
10～13	系統的フィジカルアセスメント	1 ケアにつなげるフィジカルアセスメント 2 系統別(呼吸器系、循環器系、腹部(消化器系)、筋骨格系)のフィジカルアセスメントの実際 1) 各フィジカルアセスメントの目的 2) 各フィジカルアセスメントに必要な基礎知識 3) 各フィジカルアセスメントの方法 3 心理・社会状態のアセスメント		講義、演習 レベルⅠ 52
14		1 バイタルサイン測定 1) 体温測定 2) 血圧測定 3) 呼吸測定 4) 脈拍測定		技術試験 レベルⅠ 50
15	終了試験			

科目名	臨床判断		時期	2年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師		単位(時間)、回数	1単位(15時間)、8回
科目の概要	臨床場面における状況を適切に判断し、対象の変化に応じた看護が実践する基礎的な考え方を学ぶ。			
目標	看護実践の場で行われている流動的かつ柔軟な判断・対処の実際を理解し、その基礎的な方法を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	アセスメントに自信がつく臨床推論入門. メディカ出版 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア			
技術経路録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 演習・出席状況から総合的に評価する			
授業計画				
回数	項目	内容	方法	担当講師
1・2	臨床判断とは 臨床判断のプロセス	1 看護におけるアセスメント 1)アセスメントと臨床推論 2)アセスメントにおける臨床の6段階 3)アセスメントに活かす緊急レベル信号 2 臨床推論と臨床判断 1)臨床推論・臨床判断の「判断領域」と「思考の型」 2)臨床推論・臨床判断における「気づき」の正体 3)臨床推論を導く情報収集(OPQRST 問診と身体診査) ・ISBARC による報告 3 臨床判断モデル ・気づき ・解釈 ・反応 ・省察	講義	専任教員
3・4	臨床判断に必要な思考	事例によるファーストアセスメントと看護の判断	演習	専任教員
5	気づくトレーニング	事例による気づくトレーニング	演習	専任教員
6・7	事例展開	臨床事例による臨床判断	講義	臨床看護師
8	終了試験			

科目名	生活の援助技術Ⅰ		時期	1年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	環境の調整と活動の意義を理解し、安全・安楽・自立の視点で対象の健康を促進するための、基本的技術を学ぶ。			
目標	対象の生活を整えるための環境および活動と休息の援助技術を修得する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1.豊かな人間力 ☑ 2.看護を実践する力 ☑ 3.探求する力 ☑ 4.連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学Ⅲ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院			
技術経路録 演習項目	レベルⅠ 快適な療養環境の整備、臥床患者のリネン交換、車椅子での移送、歩行・移動介助、移乗介助、体位変換・保持、自動・他動運動の援助、ストレッチャー移送 レベルⅡ 安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)			
評価	筆談試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1・2	環境調整技術	1 療養生活の環境 2 病室の環境のアセスメントと調整 1)病室・病床の選択 2)温度・湿度、光と音 3)色彩、空気の清浄性について 4)人的環境		講義
3～9		3 療養環境の調整と整備 1)ベッド周囲の環境整備 2)ベッドメイキング 3)シーツ交換 4)臥床患者のリネン交換(シーツ交換)		講義・演習 レベルⅠ 1 技術試験 レベルⅠ 1 レベルⅡ 65
10～13	活動・休息援助技術	1 基本的活動の援助、基本的活動の基礎知識 1)よい姿勢 2)ボディメカニクス 2 体位 3 移動(体位変換・歩行・移乗・移送)		講義・演習 レベルⅠ 13.14.15.16. 17.18
14	睡眠・休息の援助	1 睡眠と休息の基礎知識 2 睡眠と休息のアセスメント 3 睡眠と休息を促す援助		講義
15	終了試験			

科目名	生活の援助技術Ⅱ		時期	3年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	食生活と排泄行動を理解し、安全・安楽・自立の視点で対象の健康を促進するために必要な基礎的技術を学ぶ			
目標	1 食事の意義を理解し、基礎的な食事摂取への援助技術を修得する。 2 排泄の意義を理解し、基礎的な排泄の介助と排泄促進への援助技術を修得する。			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を实践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 任 和子 医学書院			
技術経緯録 演習項目	レベルⅠ 食事介助(嚥下障害のある患者を除く)、 排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)、膀胱留置カテーテルの管理、浣腸 レベルⅡ 導尿または膀胱留置カテーテルの挿入			
評価	筆記試験 技術演習 課題レポート 演習・出席状況から総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1～5	食事と栄養	1 食事と栄養の意義 2 栄養状態および摂取能力、食欲や食に対する認識のアセスメント 1) 栄養状態 2) 水分・電解質バランス 3) 食欲 4) 摂食・嚥下能力 5) 摂食行動 6) 食生活変更の必要性、患者の認識・行動のアセスメント 3 医療施設で提供される食事の種類と形態 4 食事摂取の介助(誤嚥予防含む) 5 摂食・嚥下訓練 6 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管・経腸栄養法 2) 経静脈栄養法		講義 演習 レベルⅠ 3
6～14	排泄	1 自然排尿および自然排便の基礎知識 1) 排泄の意義 2) 排泄器官の機能と排泄のメカニズム 3) アセスメント 2 自然排尿および自然排便の介助 1) トイレにおける排泄介助 2) 床上排泄援助 3) おむつによる排泄援助 3 排便を促す援助 1) 排便を促す援助の基礎知識 2) 浣腸(グリセリン浣腸) 4 導尿 1) 一時的導尿 2) 持続的導尿		講義 講義・演習 レベルⅠ 7 講義 演習 レベルⅠ 8、10 講義・演習 レベルⅡ 9
15	終了試験			

科目名	生活の援助技術Ⅲ		時期	1年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	清潔・衣生活の援助を行う意義を理解し、安全・安楽・自立の視点で対象の健康を促進するために必要な基本的技術を学ぶ。			
目標	1 対象の生活を整えるための衣生活の援助技術を修得する 2 対象の生活を整えるための清潔の援助技術を修得する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 任和子 医学書院			
技術経緯録 演習項目	レベルⅠ 足浴・手浴、整容、点滴・ドレーンなどを留置していない患者の寝衣交換、入浴・シャワー浴の介助、 陰部の保清、清拭、洗髪、口腔ケア			
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1・2	清潔・整容の意義	1 清潔援助の基礎知識 1) 皮膚・粘膜・口腔内の構造と機能 2) 清潔援助の効果 3) 清潔に関するニーズのアセスメント		講義
3・4	衣生活	1 衣生活援助の基礎知識 1) 衣服を用いることの意義 2) 対象の状態に応じた衣服の選択 3) 衣生活に関するニーズのアセスメント 2 寝衣交換の目的と援助方法・留意点		講義・演習 レベルⅠ 21
5～14	清潔	2 清潔援助の目的と援助方法・留意点 1) 入浴・シャワー浴 2) 清拭 3) 陰部洗浄 4) 洗髪 5) 部分浴(手浴・足浴) 6) 口腔ケア 7) 整容(洗面・爪切り・髭剃り)		講義・演習 レベルⅠ 22 24 23 25 19 26 20
15	終了試験			

科目名	診療の補助技術Ⅰ		時期	1年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	健康障害を持つ対象に実施される治療や処置を理解し、対象に必要な検査と与薬の看護技術を学ぶ。			
目標	1 検査や治療・処置を受ける対象の苦痛や不安を軽減する方法を修得する 2 検査や治療・処置の効果が最大限に達成されるよう支援する援助方法を修得する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院			
技術経路録 演習項目	レベルⅠ 経皮・外用薬の投与、検体(尿、血液等)の取り扱い、検査の介助ができる、 針刺し事故の防止・事故後の対応 レベルⅡ 経口薬の投与、坐薬の投与、皮下注射、筋肉内注射、静脈路確保・点滴静脈内注射、 点滴静脈内注射の管理、静脈血採血			
評価	筆記試験、演習、課題レポート 出席状況などを総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1～4	生体機能のモニタリング	1 症状・生体機能管理技術の基礎知識 2 臨床検査の流れと看護師の役割 3 検体検査 1)血液検査 2)尿検査 3)便検査 4)喀痰検査 4 診察・検査・処置における技術 1)X線撮影 2)コンピューター断層撮影 3)磁気共鳴映像 4)内視鏡検査 5)超音波検査 6)肺機能検査 7)核医学検査 8)穿刺 5 検査値の読み方		講義 講義・演習 レベルⅡ 55
5～14	与薬	1 与薬の基礎知識 2 経口与薬法 1)内服 2)口腔内与薬法 3 その他の与薬法 1)経皮的与薬 2)直腸内与薬 3)点眼 4)点鼻 5)吸入 4 注射法 1)薬液の吸い上げ 2)注射の実施方法 ①注射の準備 ②皮下注射 ③皮内注射 ④筋肉内注射 ⑤静脈内注射 ⑥点滴静脈内注射		講義・演習 レベルⅡ 40 講義・演習 レベルⅡ 41・42・43・ 44・62
15	終了試験			

科目名	診療の補助技術Ⅱ		時期	1年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	診療の補助行為に関わる援助方法の基本について学ぶ。 検査及び治療、創傷管理等が必要な対象者に対して、安全・安楽な療養生活を支援するための援助方法を学ぶ。			
目標	3 身体症状に応じた、基本的な看護援助技術や対処方法を修得する 4 医療機器・器具の原理を理解し、安全に取り扱うための方法を修得する 5 援助や検査時の看護の役割について理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②, 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③, 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
技術経歴録 演習項目	レベルⅠ 酸素吸入療法の実施、ネブライザーを用いた気道内加湿、体位ドレナージ、無菌操作 レベルⅡ 口腔内・鼻腔内吸引、褥瘡予防ケア、創傷処置(創洗浄, 創保護, 包帯法)			
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容	方法	担当講師
1・2	感染防止の技術	1 感染経路別予防策 2 医療施設における感染管理 3 洗浄・消毒・滅菌 4 無菌操作	講義 演習 レベルⅠ 61	専任教員
3～5	創傷管理技術	1 創傷管理の基礎知識 2 創傷処置 3 包帯法	講義 演習 レベルⅡ 36	専任教員
6・7		4 褥瘡予防ケア 5 褥瘡ケア	講義 演習 レベルⅡ 35	臨床看護師
8～13	呼吸を整える技術	1 酸素療法中の看護 1) 中央配管 2) 酸素ポンプ 3) 在宅酸素療法(HOT) 2 排痰ケア 1) 体位ドレナージ 2) 口腔・鼻腔内吸引, 気管内吸引 3 吸入 4 胸腔ドレナージ 5 人工呼吸療法	講義 演習 レベルⅠ 30.31.34 レベルⅡ 32	専任教員
14	循環を整える技術	1 体温管理の技術 2 末梢循環促進ケア	講義	専任教員
15	終了試験			専任教員

科目名	臨床看護総論		時期	2年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	基礎的知識と技術を統合し、ライフサイクル、健康状態、症状、治療を含めた看護の対象者の状況の理解を深め、実際の看護実践につながる思考と援助内容・方法を学ぶ			
目標	1 健康状態の経過の特徴とそれに基づく看護を理解する。 2 主要症状を示す対象への看護を理解する。 3 治療を受ける対象の看護を理解する。			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1.豊かな人間力 ☑ 2.看護を実践する力 ☑ 3.探求する力 ☑ 4.連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院			
技術総論録演習項目	レベルⅠ 放射線の被ばく防止策の実施 レベルⅡ 薬剤等の管理(毒薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍を含む)、輸血の管理、 人体のリスクの大きい薬剤の曝ばく予防策の実施			
評価	筆記試験 技術演習 課題レポート 演習・出席状況から総合的に評価する			
授業計画				
回数	項目	内容		方法
1~4	ライフサイクル・健康状態の経過に基づく看護	1 各期の特徴及び各期にある患者のニーズと看護援助、関連する理論 1)急性期における看護 2)慢性期における看護 3)リハビリテーション期における看護 4)終末期における看護 ・死後の処置 ・ グリーフケア		講義
5~7	主要症状を示す対象者への看護	1 呼吸に関連する症状を示す患者の看護呼吸困難 2 循環に関連する症状を示す患者の看護 ・浮腫 3 安楽に関連する症状を示す患者の看護 ・疼痛		講義
8~9	輸液療法を受ける患者への看護	1 輸液療法の目的と特徴 2 輸液療法(中心静脈栄養法を含む)を受ける患者の看護援助		講義
10~11	化学療法を受ける患者への看護	1 化学療法の目的と特徴 2 化学療法を受ける患者・家族への看護援助 ・治療前・治療中・治療後の支援 3 抗がん薬曝露の防止		講義
12	放射線療法を受ける患者への看護	1 放射線療法の目的と特徴 2 放射線療法を受ける患者・家族への看護援助 ・治療前・治療中・治療後の支援 3 放射線曝露の防止		講義・演習 レベルⅠ 66 レベルⅡ 67
13~14	輸血管理	1 輸血の適応 2 血液製剤の種類と取り扱い上の注意点 3 輸血管理の実施と患者の看護援助 ・治療前・治療中・治療後の支援 副作用・合併症		講義・演習 レベルⅡ 45、46
15	終了試験			

科目名	臨床看護の実践Ⅰ		時期	2年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師、臨床工学技士		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	これまでに学んだ知識と技術を統合し、対象の状況に合わせた安全・安楽・自立/自律に留意した看護実践をするための思考と援助方法を学ぶ。また、対象の急変場面において必要となる救命処置の基本的な考え方と技術を学ぶ。さらに、現代医療において欠かせないモニタリングをはじめとする医療機器の基礎的な管理方法について、呼吸・循環等医学全般に対する幅広い理解をもとにした実践の方法を学ぶ。			
目標	1 その場の患者の状況に応じて、既習した看護技術を複数適用する援助技術を修得する 2 救急状況での看護の役割を理解し、一次救命の技術を修得できる 3 医療機器を使用する患者の看護を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 写真で分かる 臨床看護技術2 アドバンス インターメディカ			
技術経路録(No) 演習項目	レベルⅠ 点滴ドレーン等を留置している患者の寝衣交換(27)、緊急時の応援要請(47)、一次救命処置(BLS)(48) レベルⅡ 気管内吸引(33)、医療機器(輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、人工呼吸器等)の操作・管理(68)			
評価	筆記試験、技術試験、演習、出席、課題レポートなどを総合的に評価する			
授業計画				
回数	項目	内容	方法	担当講師
1~5	多重課題をもつ患者の看護実践	点滴やドレーン等を留置している事例によるモデル人形を用いたシミュレーション ・ブリーフィング ・シミュレーション ・デブリーフィング	講義・演習 レベルⅠ 27	専任教員
6~9	救命救急処置が必要な患者の看護実践	1 救命救急処置の基礎知識 1) 救急対応の考え方 2) 救急・急変時における初期対応 3) トリアージ 2 心肺蘇生法 1) 心肺蘇生法の基礎知識 2) 一次救命処置の実際 3) 二次救命処置について 3 急変時の対応 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	講義・演習 レベルⅠ 47 レベルⅠ 48	臨床看護師
10・11	医療機器を使用する患者の看護実践	1 医療機器の取り扱い 1) 輸液ポンプ・シリンジポンプ 2) 心電図モニター 3) 人工呼吸器 4) 除細動器	講義・演習 レベルⅡ 68	臨床工学技士
12~14		2 看護の実践 1) 輸液ポンプ・シリンジポンプ使用中の看護 2) 人工呼吸器を装着中の看護・挿管中の気管内吸引	講義・演習 レベルⅡ 33	専任教員
15	終了試験			専任教員

科目名	地域・在宅看護概論	時期	1年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	地域・在宅看護が推進されている社会的背景を踏まえ、看護職に求められる役割と地域・在宅看護の基盤となる考え方を学ぶ。統計から在宅看護を必要とする療養者と家族の特徴を捉え、その多様性・複雑性について学ぶ。医療機関から療養の場の移行に伴う看護と対象者を支える医療・介護・福祉の連携システムを学ぶ。		
目標	1 地域・在宅看護が必要とされる社会的背景と地域・在宅看護の概念について理解する 2 統計から地域・在宅看護の対象者の特徴について理解する 3 療養の場の移行に伴う看護と医療・介護・福祉との連携システムについて理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 国民衛生の動向 厚生統計協会		
技術経験録 演習項目			
評価	筆記試験、出席状況・態度、課題レポートなどを総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方 法
1～3	地域・在宅看護の概念	1 地域と生活の中で健康をとらえる看護の視点 2 地域・在宅看護の変遷と今後の課題 3 地域・在宅看護の原則 4 地域・在宅看護に求められる役割 1) パートナーシップ 2) 意思決定支援 3) 自立支援 4) ケアマネジメント 5) ヘルスプロモーション 5 地域・在宅看護における倫理	講義・演習
4～8	統計からみた地域・在宅看護の対象者の特徴	1 小児期、成人期、老年期のライフステージによる多様性 2 疾病や障害による健康レベル・健康課題の多様性 3 家族の定義と機能 4 家族システム理論・家族発達論 5 家族の多様性	講義・演習
9～10	療養の場の移行に伴う看護	1 医療機関における入退院支援 2 在宅療養の成立要件 3 地域連携クリニカルパス	講義・演習
11～14	地域・在宅看護と医療・ 介護・福祉との連携	1 統計からみた地域の多様性 2 地域包括ケアシステム 3 多様な場で提供される地域・在宅看護 4 地域・在宅看護における多機関・多職種との連携 1) 医療機関・行政・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所 介護サービス事業所との連携 2) 医療専門職・福祉専門職・介護専門職との連携	講義・演習
15	終了試験		

科目名	地域・在宅看護 I	時期	2 年次 前期
講師	看護師として 5 年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1 単位(15 時間) 8 回
科目の概要	地域で療養する多様なライフステージ、健康レベルの対象の生活を支える制度と社会資源の活用に向けた看護師の役割と実践に結びつける方法を学ぶ。訪問看護制度の変遷と訪問看護制度の仕組みについて学ぶ。		
目標	1 地域・在宅看護にかかわる制度や社会資源の活用方法を理解する 2 訪問看護制度の変遷と仕組みについて理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 国民衛生の動向 厚生統計協会		
技術習得録 演習項目			
評価	筆記試験、出席状況・態度、課題レポートなどを総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1～4	地域・在宅療養を支える 制度とその活用	1 社会資源の活用 2 医療保険制度 3 後期高齢者医療制度 4 介護保険制度 5 生活保護制度 6 障害者に関連する法律 1) 障害者総合支援法 2) 発達障害者支援法 3) 障害者を支える手当 4) 障害年金 7 難病法 8 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 1) 小児慢性特定疾患対策 2) 療育医療 3) 子供の在宅療養を支える手当 9 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 1) 日常生活自立支援事業 2) 成年後見制度 10 高齢者施策 1) 医療介護総合確保推進法 2) 認知症施策推進大綱 3) 高齢者虐待防止法	講義・演習
5～7	訪問看護制度の変遷と仕 組み	1 訪問看護制度の変遷 2 訪問看護制度の仕組み 1) 介護保険法・健康保険法に基づく訪問看護 2) 訪問看護ステーションの指定基準 3) 訪問看護サービス開始までの流れ 4) 訪問看護の費用	講義
8	終了試験		

科目名	地域・在宅看護Ⅱ	時期	2年次 前期・後期
講師	訪問看護師	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	訪問看護における看護過程の特徴とその実際を学ぶ。訪問看護に多い事例を通し、多様なライフステージ、健康レベルにある療養者と家族の生活上の課題を検討し、在宅における看護過程の展開方法を学ぶ。		
目標	1 訪問看護における看護過程の特徴とその実際を理解する 2 事例を通し、多様なライフステージ、健康レベルに応じた在宅における看護過程の展開方法を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 強みと弱みからみた 地域・在宅看護過程+総合的機能関連図 医学書院		
技術経路録 演習項目			
評価	筆記試験、出席状況、グループワークの課題、プレゼンテーションなどを総合的に評価する		
授業計画			
回数	項目	内容	方法
1~4	訪問看護サービスの展開	1 訪問看護における看護過程の特徴 2 訪問看護過程の実際 1)情報収集 2)アセスメント 3)計画立案 4)実施 5)評価 3 訪問看護の記録 1)訪問看護記録の意義 2)訪問看護で使用する記録 3)訪問看護記録を記入するときの留意点	講義
5~14	在宅における療養者と家族の事例展開	1 脳梗塞後遺症で高次機能障害のある療養者 2 認知症の高齢者 3 ALS 療養者 4 終末期がん療養者 5 事故による中途障害(脊髄損傷)の療養者 6 精神障害者 7 重度心身障害の小児	講義・演習
15	終了試験		

科目名	地域・在宅看護Ⅲ	時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	訪問看護の特徴や役割を捉え、在宅療養を支える基本的な訪問看護技術を学ぶ。療養者と家族のセルフマネジメント・リスクマネジメントの向上を目指し、日常生活の支援と異常の早期発見・早期対応に向けた支援を学ぶ。ライフステージ・健康レベルを踏まえ、多様性・複雑性をもつ対象のその人らしい生活を支援する看護を学ぶ。		
目標	1 訪問看護の特徴や役割を捉え、在宅療養を支える基本的な訪問看護技術を理解する 2 療養者と家族の日常生活の自立支援・安全管理に向けた支援を理解する 3 ライフステージ・健康レベルを踏まえ、多様性・複雑性をもつ対象の療養生活を支援する看護を理解する		
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1.豊かな人間力 ☑ 2.看護を実践する力 ☑ 3.探求する力 ☑ 4.連携・協働する力		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術 メディカ出版 強みと弱みからみた 地域・在宅看護過程+総合的機能関連図 医学書院		
技術経験録 演習項目	レベルⅠ 摘便		
評価	筆記試験、出席状況・態度、課題レポートなどを総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方 法
1~4	在宅療養を支える 基本的な訪問看護技術	1 訪問看護の特徴 2 訪問看護師の役割 3 初回訪問の目的 4 ICFを用いたヘルスアセスメント 5 訪問時のマナーとコミュニケーション技術 6 日常生活を支える看護技術 1)在宅療養環境の整備 2)食事・排泄・清潔・移動の看護 3)生活リハビリテーション	講義 講義・演習 レベルⅠ 11
5~6	在宅療養者の日常生活 における安全管理と 症状に応じた看護	1 在宅看護におけるリスクマネジメント 1)転倒・転落 2)誤嚥・窒息 3)感染症 4)熱中症 5)熱傷 2 症状に応じた在宅看護 1)発熱 2)消化器症状 3)疼痛 4)呼吸困難感	講義・演習
7~14	ライフステージ・疾患・ 病期・障害に応じた在宅 看護	1 障害をもつ在宅療養者と家族の看護 1)脳血管疾患 2)脊髄障害 2 難病をもつ在宅療養者と家族の看護 1)ALS 2)パーキンソン病 3 慢性期にある在宅療養者と家族の看護 1)糖尿病 2)心不全 3)呼吸器疾患 4 急性増悪した在宅療養者と家族の看護 5 終末期にある在宅療養者と家族の看護 1)ACP 2)維持期・悪化期・臨死期への支援 3)グリーフケア 6 認知症がある高齢の在宅療養者と家族の看護 7 小児の療養者と家族の看護 1)医療的ケア児 2)重症心身障害児	講義・演習
15	終了試験		

科目名	地域・在宅看護Ⅳ		時期	2 年次 後期
講師	看護師として 5 年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 回数	2 単位(30 時間) 15 回
科目の概要	在宅における医療ケアの原理原則と療養者と家族が主体となり、療養生活を継続するためのセルフマネジメント・リスクマネジメントを支援する看護を学ぶ。在宅療養者と家族への防災対策や医療・福祉機関との連携を理解し、災害時の健康危機管理について学ぶ。			
目 標	1 在宅療養を支える医療的ケアの原理原則を理解する 2 在宅における医療的ケアの自立支援・安全管理を踏まえた療養者・家族への指導・支援方法を理解する 3 在宅療養を支える健康危機管理・災害対策と訪問看護師の役割について理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 新改訂 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ			
技術経路録 演習項目	レベルⅠ 経管栄養法による流動食の注入、経鼻胃チューブの挿入			
評 価	筆記試験、出席状況・態度、課題レポートなどを総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項 目	内 容		方 法
1～12	在宅療養を支える医療的ケア	1 医療ケアの原理原則 1)セルフマネジメント 2)リスクマネジメント 3)多機関・多職種との連携 4)社会資源の活用・調整 2 薬物療法 3 がん外来化学療法 4 疼痛管理 5 排尿ケア 6 ストーマ管理 7 在宅経管栄養法(HEN) 1)経鼻経管栄養法 2)胃瘻(PEG) 8 輸液管理 1)在宅中心静脈栄養法 2)末梢静脈栄養法 9 インスリン自己注射 10 足病変のケア 11 在宅CAPD 管理 12 褥瘡管理 13 排痰ケア 14 気管カニューレ管理 15 在宅酸素療法(HOT) 16 在宅人工呼吸療法(HMV) 1)NPPV 2)TPPV		講義・演習 講義・演習 レベルⅠ 5.6
13・14	在宅療養を支える健康危機管理・災害対策	1 在宅療養における健康危機・災害対策 2 地域包括ケアシステムにおける健康危機・災害対策 3 訪問看護師による健康危機・災害対策		講義・演習
15	終了試験			

科目名	成人看護学概論		時期	1年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回	
科目の概要	成人を身体的・心理的・社会的・文化的側面から理解し、ライフサイクルにおける成人期の対象を理解し、成人期をとりまく健康課題と看護を实践するうえでの基礎を学ぶ。			
目標	1 成人期にある対象の特徴について理解する。 2 成人期にある対象の生活習慣やライフスタイルと健康問題との関連を理解する。 3 成人期にある対象の学習の特徴を理解し健康行動促進のための看護を理解する。 4 成人期にある対象の健康問題に有用な理論・概念を理解する。			
ディプロマ・ポリシーとの関連	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 豊かな人間力 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 看護を实践する力 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 探求する力 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 生涯人間発達論 人間への深い理解と愛情を育むために 阿部祥子 医学書院 看護実践に活かす中核理論 第2版 メヂカルフレンド社 厚生指針 国民衛生の動向 刊行版 厚生労働統計協会 生活習慣病のしおり			
技術経緯録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1~4	成人の特徴と生活・健康	1 成人の特徴 1)成人という対象の理解 ・生涯発達の特徴 ・発達段階、発達課題(エリクソン・ハヴィガースト) ・各発達段階の特徴(青年期・壮年期・中年期・向老期) 2 成人の生活 1)生活を営むこと 2)仕事をもち働くこと 3)家族からとらえる大人 4)人生をたどること		講義
5~13	成人における健康の保持・増進や疾病の予防	1 成人を取り巻く環境 1)人口 2)経済 3)成人の生活 4)日常生活の特徴 2 成人の健康の状況 1)生と死の動向 2)健康格差 3)職業性疾病・業務上疾病 3 成人における健康の保持・増進や疾病の予防の対策 1)健康増進法 2)健康日本21 3)健康日本21(第二次) 4)がん対策基本法 5)特定健康診査・特定保健指導 6)スマートライフプロジェクト 4 成人における健康の保持・増進や疾病予防の看護アプローチの基本 1)大人の健康行動 2)行動変容ステージモデル・自己効力感 3)エンパワメント		講義 演習:グループワークによる健康教室開催
14	ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションと看護 1)ヘルスプロモーション 2)ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動		講義
15	終了試験			

科目名	成人看護学Ⅰ		時期	2年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	完全に治ることは望めない、もしくは望みにくい慢性の経過をたどる対象に、再発防止や身体機能の維持・改善を目指し生活を支援する看護の基礎を学ぶ。			
目標	1 慢性期にある成人期の対象とその家族の特徴、および看護を理解する 2 慢性期にある成人期の対象が病気とともにその人らしく生きていくことを支える看護を理解する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6]内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器 医学書院			
技術経路録 演習項目				
評価	筆記試験・課題レポート・グループワーク参加・出席状況などから総合的に評価する			
授業計画				
回数	項目	内容	方法	担当講師
1~2	慢性疾患の特徴	1 慢性病と慢性病を持つ人の特徴 2 慢性病との共存を支える看護の実践 1)セルフケア及びセルフマネジメントへの支援 2)生活の再構築への支援 ①自己効力感 ②教育的アプローチ	講義	臨床看護師 1
3~6	1型2型糖尿病患者の病期に応じた看護	1 血糖調節機能障害の原因と程度 2 症状と観察 1) 血糖調節機能障害による症状の把握と援助 3 検査を受ける患者の看護 1) 糖負荷試験<OGTT> 2) 自己血糖測定を行う患者の援助 4 治療を受ける患者の看護 1) インスリン補充療法 2) 糖尿病治療内服薬による治療 3) 食事・運動療法	講義・演習	臨床看護師 2
7~10	慢性腎不全患者の病期に応じた看護	1 腎機能障害の原因と程度 2 症状と観察 1) 尿毒症症状 2) 不均癩症候群 3 透析治療を受ける患者の看護 1) 血液透析 2) 腹膜透析 4 腎移植を受ける患者の看護 5 セルフマネジメントのための教育的関わり 1) 生活指導	講義・演習	臨床看護師 3
11~14	肝硬変患者の病期に応じた看護	1 肝機能障害の原因と程度 2 肝機能障害による症状の把握と援助 1) 肝性脳症 2) 食道静脈瘤 3) 浮腫・腹水 4) 倦怠感 5) 黄疸 6) 出血傾向 3 治療を受ける患者の看護 1)薬物療法 2)生活指導 3)食道静脈瘤硬化療法 4 セルフマネジメントのための教育的関わり 1) 生活指導	講義・演習	臨床看護師 4
15	終了試験			専任教員

科目名	成人看護学Ⅱ		時期	2年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	生命の危機状態(周手術期・救命救急)にある対象及びその家族に対して、生命の危機回避とQOL向上にむけた看護を実践するための基礎を学ぶ。			
目標	1 生命の危機状態にある対象とその家族の特徴と看護を理解する 2 周手術期にある対象の特徴と創傷治癒を促進するための援助方法を理解する 3 周手術期にある対象の事例をとらえて健康上の問題及び看護の方向性を考える			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3]循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器 医学書院 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 医歯薬出版 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版			
技術経路録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容	方法	担当講師
1	急性期にある対象の特徴の理解	1 健康の急激な破綻 2 急性期にある人の特徴 1) 侵襲刺激に対する生体反応・心理的反応 3 急性期にある人の看護 1) 危機理論 2) 危機にある人々への支援	講義	専任教員
2~6	循環機能障害のある患者の看護	1 虚血性心疾患のある患者への看護 1) 虚血性心疾患の原因と程度 2) 経皮的冠動脈形成術 3) 冠動脈バイパス術 4) 虚血性心疾患をもつ人の看護 2 心不全のある患者への看護 1) 心不全の原因と程度 2) 心不全の治療 3) 心不全をもちながら生活する人の看護 3 不整脈のある患者への看護 1) 不整脈の原因と程度 2) ペースメーカー植込み術 3) ペースメーカーを装着した患者への看護 4 弁膜症のある患者への看護 1) 弁膜症の原因と程度 2) 弁置換術を受ける患者の看護	講義 演習: 12 誘導心電図	臨床看護師
7~11	周手術期看護	1 手術前の看護 1) 身体面・心理面の準備 2) 術後合併症を予防する為の術前看護 2 手術中の看護 1) 麻酔導入時の看護 2) 手術体位による影響と援助 3) 安全管理 3 術後の看護 1) 手術侵襲と生体反応 2) 手術後の疼痛管理 3) 創傷、ドレーン管理 4 術後合併症と予防 1) 呼吸器合併症 2) 血栓塞栓症 3) 術後イレウス 4) 術後せん妄 5) 術後出血 5 早期回復促進のための援助	講義	専任教員
12~14	周手術期の事例展開	1 胃がんの症状と看護 2 事例展開「幽門側胃切除術を受ける患者」	演習	専任教員
15	終了試験			専任教員

科目名	成人看護学Ⅲ		時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師	単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回	
科目の概要	逃れられない死に直面した対象及びその家族に対し、個人の持つ価値観や人生観を理解し、死にゆく人の尊厳を守り、苦痛や苦悩をできる限り緩和し、その人らしく生を生き抜くための看護を実践する基礎を学ぶ。			
目標	1 終末期にある成人期の対象とその家族の特徴および看護を理解する 2 終末期にある対象の事例を通して、終末期看護について考える			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4]血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器 医学書院			
技術経路録 演習項目				
評価	筆記試験・出席・課題レポート・看護過程・グループワークなど総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容	方法	担当講師
1～2	人生の最期の ときを支える 看護	1 延命医療から患者の自己決定を重視した医療へ 2 人生の最期のときにおける緩和ケア 1)緩和ケア 2)エンドオブライフケア 3 人間にとっての死 4 全人的苦痛(トータルペイン) 5 人生の最期のときを支える看護 1)意思決定支援と看護師の役割	講義	専任教員
3～6	血液悪性疾患 患者の病期に 応じた看護援 助(白血病・悪 性リンパ腫)	1 白血病・悪性リンパ腫とは 2 化学療法を受ける患者の看護 1)化学療法の理解を促す看護 2)抗癌薬投与時の観察と援助 3)有害事象に対する症状マネジメント 4)長期合併症のアセスメントと援助 5)心身状態のアセスメント 3 造血幹細胞移植を受ける患者の看護 1)造血幹細胞移植の理解を促す援助 2)ドナーの健康状態のアセスメントと援助 3)移植片対宿主病<GVHD>の観察と援助 4)移植病室入室中の患者の援助 5)心身状態のアセスメント	講義	臨床看護師
7～14	肺がん患者の 病期に応じた 看護援助 (看護過程)	1 肺がん患者の経過と看護 1)症状に対する看護 2)検査を受ける患者の看護 3)手術を受ける患者の看護 4)肺がん患者の看護 2 事例展開 :「肺がん患者の看護事例を用いて終末期事例」	講義・演習	専任教員
15	終了試験			専任教員

科目名	成人看護学Ⅳ		時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、回数	2単位(30時間)、15回	
科目の概要	様々な健康レベルにある成人期の対象を看護するために必要な援助技術を学ぶ 対象者が主体的な療養行動を新たに獲得し、その人らしい生活を再建するための支援に必要な援助技術を学ぶ。 また、対象者が最期までその人らしく生を抜くことを支えるための援助技術を学ぶ。			
目標	1 心身の状況に応じた援助技術を修得する 2 様々な状況にある対象者が主体的な療養行動を獲得するために必要な看護技術を修得する 3 緩和ケアに必要な基本的看護技術を修得する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1.豊かな人間力 ☑ 2.看護を実践する力 ☑ 3.探求する力 ☑ 4.連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 写真でわかる臨床看護技術2 インターメディカ 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 第3版 医歯薬出版 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 第3版 医歯薬出版			
技術経験録(No) 演習項目	レベルⅠ 簡易血糖測定(54)、精神的安寧を保つためのケア(71) レベルⅡ 食事指導(4)、ストーマ管理(12)、ドレーン挿入部位の処置(37)			
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1～9	手術を受ける対象の看護技術	1 術前の看護 1)呼吸訓練 2)深部静脈血栓予防 2 術後の看護 「成人看護学Ⅱ」の看護過程で計画した看護の実践 1)離床時の看護 2)創傷処置 ①滅菌操作 ②ドレーンガーゼの交換 3)血糖測定 4)パンフレットによる退院指導 3ストーマケア 1)ストーマの分類 2)ストーマ管理の実際		講義・演習 講義・演習 演習 レベルⅡ37 レベルⅠ54 レベルⅡ4
10～12	セルフマネジメントが必要な対象の看護技術	1 セルフケア・セルフマネジメントを促す看護 ・事例をもとにセルフケア・セルフマネジメントを促す援助		講義・演習
13・14	緩和ケアが必要な対象の看護技術	1「成人看護学Ⅲ」の看護過程で計画した看護の実践 1) 身体的苦痛緩和の援助 2) 精神的苦痛緩和の援助 3) 援助的コミュニケーション 2 死後の処置		演習 レベルⅠ71 DVD 視聴
15	終了試験			

科目名	老年看護学概論		時期	1年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	ライフサイクルにおける老年期の特徴と高齢化に伴う保健・医療・福祉システム変遷を理解し、老年看護の基本となる考えを学ぶ。			
目標	1 加齢変化を捉え、老年看護の対象と役割について理解する 2 超高齢社会における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 山田律子 医学書院			
技術経緯録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート、授業態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内容	方法	
1~7	老年看護学の理論と概念 高齢者の特徴	1 老化のメカニズム ・生理的老化と病的老化 2 老年看護学の変遷 3 老年看護における生活史 4 老年期の発達課題と老年看護に活用できる理論 ・生涯発達理論 ・サクセスフルエイジング ・ストレングスモデル 1 加齢に伴う身体的変化 (運動器・神経・感覚器・循環器・呼吸器・免疫・消化器・泌尿器・内分泌・生殖器) ・サルコペニア ・ロコモティブシンドローム ・フレイル ・老年症候群 2 加齢に伴う心理的・社会的変化 3 高齢者とのコミュニケーション方法	講義 演習 高齢者疑似体験 講義	
8・9	我が国の高齢化問題	1 世界と比較した我が国の高齢化の推移 2 高齢者に関する統計とその背景 ・世帯数 ・就業と所得状況 ・有訴率 ・受療率 ・死因 ・事故	講義	
10~12	高齢化に伴う保健医療福祉システムの変遷	1 高齢者を支える法律と制度 ・老人福祉法 ・老人保健法 ・介護保険制度 ・高齢者住まい法 ・後期高齢者医療制度 ・医療・介護総合確保推進法 2 高齢者のヘルスプロモーションと介護予防 ・ゴールドプラン ・オレンジプラン ・余暇活動と生きがい 3 地域包括ケアシステム 4 多様な生活の場における看護とチームアプローチ	講義	
13・14	高齢者の権利擁護	1 スティグマとエイジズム 2 ノーマライゼーション 3 高齢者虐待の実態と高齢者虐待防止法 4 成年後見制度 5 日常生活自立支援事業	講義	
15	終了試験			

科目名	老年看護学 I		時期	1年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	高齢者特有の症候と健康問題を理解し、生活者としての視点を踏まえ、生活機能を維持・向上するための看護を学ぶ。治療を受ける高齢者の看護と人生の最終章を生きる老年期のエンドオブライフケアについて学ぶ。			
目標	1 老年期特有の症候による生活機能への影響を考え、高齢者の生活を支える看護について理解する 2 治療を受ける高齢者の看護について理解する 3 高齢者のエンドオブライフケアについて理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 山田律子 医学書院			
技術経歴録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート、授業態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1~10	高齢者の生活を支える看護	1 高齢者の生活機能と評価 ・ICF ・CGA ・FIM ・障害高齢者の日常生活自立度判定基準 2 目標志向型思考と生活行動モデル 3 高齢者のフィジカルアセスメント 4 高齢者に特有な症候と看護 1) 廃用症候群 7) 前立腺肥大症 2) 骨粗鬆症 8) 老人性肺炎 3) 脱水症 9) 睡眠障害 4) 摂食・嚥下障害 10) 白内障と聴覚障害 5) 低栄養 11) 老人性皮膚掻痒症 6) 尿失禁・便秘・下痢 12) うつ病 5 高齢者のヘルスアセスメント		講義・演習
11・12	治療を受ける高齢者の看護	1 薬物療法を受ける高齢者の看護 1) 加齢に伴う薬物動態の変化 2) 高齢者特有の薬物有害事象 ・ポリファーマシー 3) 服薬アドヒアランスと服薬管理支援 2 手術療法を受ける高齢者の看護 1) 手術侵襲のリスクと QOL を考えた適応 2) 高齢者に起こりやすい術後合併症と看護 ・呼吸器合併症 ・せん妄 3 リハビリテーションを受ける高齢者の看護 1) 介護予防と在宅復帰に向けた退院支援		講義
13・14	高齢者のエンドオブライフケア	1 高齢者の死生観 2 高齢者の意思決定支援 1) アドバンスケアプランニング ・アドバンスディレクティブ ・リビングウィル 3 高齢者の終末期看護		講義・演習
15	終了試験			

科目名	老年看護学Ⅱ		時期	2年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	老年期に多い疾患の看護を理解し、健康逸脱から回復を促す看護について学ぶ。			
目標	1 認知症をもつ高齢者の看護を理解する 2 脳血管障害・神経系疾患をもつ高齢者の看護を理解する 3 運動器障害をもつ高齢者の看護を理解する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を实践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 山田律子 医学書院			
技術経路録 演習項目				
評価	筆記試験			
授業計画				
回数	項目	内容	方法	担当講師
1~4	認知症をもつ 高齢者の理解 と看護	1 認知症の定義 2 認知症の症状 1)生理的物忘れと認知症の違い 2)中核症状と行動・心理症状(BPSD) 3 認知機能と生活機能の評価 1)MMSE・HDS-R 2)認知症高齢者の日常生活自立度判定基準 4 四大認知症の看護	講義・演習	臨床看護師1
5~9	脳血管障害を もつ高齢者の 理解と看護	1 脳卒中に対する急性期から回復期の看護 1)発症要因 2)症状と看護 ・意識レベルの評価 ・頭蓋内圧亢進症状 ・高次脳機能障害 ・運動・感覚機能障害と麻痺の評価 ・嚥下障害 ・排泄障害 3)薬物療法・手術療法・リハビリテーションを受ける患者の看護	講義	臨床看護師2
	パーキンソン 病をもつ高齢 者の理解と看護	1 パーキンソン病の看護 1)ホーエン・ヤール重症度分類と症状に合わせた看護	講義	
10~14	運動器障害を もつ高齢者の 理解と看護	1 運動器疾患に対する急性期から回復期の看護 1)腰部脊柱管狭窄症の看護 2)圧迫骨折の看護 ・コルセットの目的と装着中の留意点 3)変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術後の看護 ・CPMの目的と実施中の留意点 4)変形性股関節症に対する人工股関節置換術後の看護 5)大腿脛骨骨折・大腿骨頸部骨折の手術前後の看護	講義・演習	臨床看護師3
15	終了試験			専任教員

科目名	老年看護学Ⅲ		時期	2年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(15時間)、8回
科目の概要	高齢者の特徴と老年特有の健康障害を踏まえ、生活機能とストレングスに着目した看護過程の展開方法を学ぶ。 高齢者のQOLとその人らしい生活のあり方を考え、対象とその家族の支援について考える能力を養う。			
目標	1 高齢者の特徴と老年特有の健康障害を踏まえ、生活機能とストレングスに着目した看護過程の展開方法を理解する 2 高齢者のQOLを考え、対象とその家族の支援について理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 山田律子 医学書院			
技術経緯録 演習項目				
評価	課題レポート、グループワーク・演習への参加意欲・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容	方法	
1～6	健康障害のある高齢者の看護過程の展開	アルツハイマー型認知症をもつ対象が大腿骨頸部骨折を受傷し人工骨頭置換術を施行した事例（急性期から回復期の看護） 1 高齢者の特徴を踏まえたアセスメント 1)加齢変化及び疾患による生活への身体的・心理的・社会的影響 ・入院前後の生活習慣とライフスタイル ・住宅環境への適応 ・入院前後のADLの変化とセルフケア能力 ・高齢者のヘルスアセスメント ・対象・家族の希望と目指す回復像 ・加齢変化 ・入院環境・病態・治療による影響 ・高齢者特有の健康障害・合併症 ・サポート状況(家族・社会資源・地域) 2)生活史と発達課題	講義・演習	
7・8		2 アセスメントに基づいた看護計画の立案・実施 1)加齢変化・疾患による生活機能の変化に合わせた援助 2)入院前後の生活環境とライフスタイルを踏まえた援助 3)対象の目指す回復像とQOLの維持・向上を考えた援助 4)対象のもてる力・残存機能を活用したセルフケア獲得に向けた自立への援助 5)老年期特有の事故防止・二次障害の予防に向けたリスクマネジメント 6)安全・安楽を考慮した援助 7)家族への援助 8)退院後の生活を見据えた援助	演習	

科目名	小児看護学概論		時期	1年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	小児各期における子どもの成長・発達の特徴を理解し、子どもの最善の利益のために、子どもと家族の特徴と社会の変化を踏まえた小児看護の役割について学ぶ			
目標	1 小児看護の対象となる子どもの特徴と、看護の機能と役割を理解する 2 小児各期の特徴に適した基本的な生活習慣と養護を理解する 3 子どもを取り巻く社会環境と動向、子どもの健康上の課題を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児看護学各論 医学書院 国民衛生の動向 一般社団法人 厚生労働統計協会 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ			
技術経験録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1・2	小児看護学の特徴と理念	1 小児看護学の目指すところ 2 小児と家族の諸統計 3 小児看護の変遷 4 小児看護における倫理 5 小児看護の課題		講義
3	子どもの成長・発達	1 成長・発達とは 1) 一般的原則 2) 成長・発達に影響する因子 3) 成長・発達の評価		講義
4	小児各期の成長・発達の 特徴	新生児		講義
5		乳児期		講義
6		幼児期		講義
7		学童期・思春期・青年期		講義
8・9	子どもの栄養	1 子どもにとっての栄養の意義 2 子どもと食育 3 発達段階別の子どもの栄養の特徴 1) 乳児期 2) 幼児期 3) 学童期・思春期 4) 思春期・青年期		講義・演習: 人工乳作成・離乳食体験
10	子どもの養育と看護	1 乳幼児期の看護と生活指導 2 学童・思春期・青年期の看護と生活指導 3 子どもの遊びと発達 4 事故防止		講義
11~13	家族の特徴とアセスメント 子どもを取り巻く社会	1 子どもにとっての家族とは 1 児童福祉 2 医療費の支援 3 予防接種 4 学校保健 5 特別支援教育 6 臓器移植		講義
14	子どもの虐待と看護	1 子どもの虐待への対策の経緯と現状 2 子どもの虐待とは 3 リスク要因と発生予防・早期発見 4 子どもの虐待に特徴的にみられる状況 5 求められるケア		講義
15	終了試験			

科目名	小児看護学Ⅰ		時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回	
科目の概要	医療が提供される場面であっても、常に子どもの成長・発達を踏まえて看護が展開されることを理解し、治療及び検査・処置における子供と家族に対する看護を学ぶ。			
目標	1 病気や入院が子どもと家族に与える影響と看護を理解する 2 健康障害をもつ子どもに必要な治療環境及び検査・処置における援助を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児看護学各論 医学書院 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ			
技術経緯録 演習項目	レベルⅠ 酸素吸入の実施、ネブライザーを用いた気道内加湿バイタルサインの測定、検体(尿、血液)の取り扱い、安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防) レベルⅡ 点滴剤の管理、			
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1	病気・障害を持つ子どもと家族の看護	1 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2 子どもの健康問題と看護		講義
2	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	1 入院中の子どもと家族の看護 2 外来における子どもと家族の看護 3 在宅療養中の子どもと家族の看護 4 災害時の子どもと家族の看護		講義
3・4	子どもにおける疾病の経過と看護	1 慢性期にある子どもと家族の看護 2 急性期にある子どもと家族の看護 3 周手術期の子どもと家族の看護 4 終末期の子どもと家族の看護		講義
5	子どものアセスメント	1アセスメントに必要な技術 1)コミュニケーション 2)バイタルサイン 3)身体計測		講義
6~8	検査・処置を受ける子どもの看護	1 子どもにとっての検査・処置体験 2 検査・処置各論 与薬・輸液管理・採血・採尿・腰椎穿刺・酸素療法・吸入		講義・演習 レベルⅠ 30.31.50.53 65 レベルⅡ 44
9・10	症状を示す子どもの看護	1 小児の主な症状の観察と看護 不機嫌・啼泣・痛み・呼吸困難・けいれん発熱・嘔吐		講義
11~14	小児の遊び	1子どもにとって遊びとは 2発達段階に合わせた遊び		演習: 発達に合わせた遊びの提供
15	終了試験			

科目名	小児看護学Ⅱ		時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	疾患や障害をもちながらも成長・発達段階にある子どもとその家族を理解し、疾患と症状、治療に伴う看護を学ぶ。			
目標	健康障害をもつ子どもとその親・家族への看護を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を实践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院			
技術経路録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容	方法	担当講師
1・2	低出生体重児の看護	1 胎外生活への適応を支える看護 2 成長・発達を支える看護 3 家族への看護	講義	臨床看護師1
3	急性胃腸炎の 子どもの看護	1 脱水の評価と看護 2 輸液と栄養補給 3 清潔ケア・感染予防	講義	専任教員
4・5	ネフローゼ症 候群の子ども の看護	1 急性期(欠乏期) 2 回復期(利尿期) 3 症状消失後 4 退院に向けて	講義	臨床看護師2
6	食物アレルギー の子ども の看護	1 アレルギー症状に対する看護 2 予防と日常生活における注意点(誤食防止)	講義	臨床看護師2
7~9	気管支喘息の 子どもの看護	1 急性発作に対する看護 2 長期的管理に置ける看護 1)自己管理の促進(喘息症状のコントロール) 2)アドヒアランス向上への支援	講義	臨床看護師2
10・11	川崎病の子ど もの看護	1 急性期の看護 2 回復期の看護 3 家族への看護	講義	臨床看護師2
12・13	白血病の子ど もの看護	1 診断時の看護 2 治療を受ける看護 3 再燃・再発時の看護	講義	専任教員
14	障害のある子 どもと家族の 看護	1 障害の捉え方 2 障害のある子どもと家族の特徴 3 障害のある子どもと家族への社会的支援	講義	臨床看護師3
15	終了試験			専任教員

科目名	小児看護学Ⅲ		時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、回数	1単位(15時間)、8回	
科目の概要	小児の特徴を踏まえた看護過程の展開と、治療に伴う小児特有の看護技術を修得する。			
目標	1 子どもの治療に伴う看護の知識と技術を理解する 2 小児の特徴を踏まえた看護過程のプロセスを理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を实践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ			
技術経歴録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1～3	検査・処置を受ける子どもの看護	子どもにとっての検査・処置における看護 発達段階・疾患・症状・治療・検査に応じた看護		講義 演習: プレパレーション
4～7	白血病の子どもの看護	白血病の発症がわかった学童期の子どもの事例展開 疾患、症状、検査、治療、学童期の発達段階における特徴、生活、家族・きょうだいへのケアの視点から、ゴードンの機能的健康パターンを用いて看護過程を展開する		演習: 看護過程
8	終了試験			

科目名	母性看護学概論		時期	2年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師	単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回	
科目の概要	母性の対象を身体的・心理的・社会的・文化的側面から理解するため妊娠・分娩・産褥期および女性のライフサイクル各期の特徴・看護を学ぶ。母性をとりまく日本や諸外国の保健の動向や現状の課題について学ぶ。			
目標	1 母性の概念と母性看護の意義および特性について理解する 2 母性に関する諸問題、各期における母性の特徴を理解し、母性の健康保持・増進に必要な看護を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会			
技術経路録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1・2	母性看護の概念	1 母性、父性、親性 2 母親・父親役割 3 母子相互作用 4 家族の発達・機能 5 ウエルネス		講義・演習
3	母性看護の倫理	1 生命倫理と看護倫理 2 倫理的意思決定 3 母性看護における安全・事故予防		
4～7	社会の変遷、現状と看護	1 歴史的変遷と現状 2 母子保健統計 3 関係法規・施策 4 周産期医療システム 5 災害時の妊産婦と家族支援 6 在留外国人の母子支援		
8・9	リプロダクティブ・ヘルス	1 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 2 セクシャリティ 3 ヘルスプロモーション 4 プレコンセプションケア 5 家族計画 6 人工妊娠中絶		
10	性と生殖機能のメカニズム	1 受精 2 ヒトの発生・性的分化		
11～14	ライフサイクル各期の看護	1 思春期・成熟期の健康と看護 1) 二次性徴 2) 性意識・性行動の発達 3) 性周期 4) 月経異常 5) 性感染症 6) 不妊症・生殖補助医療 7) 性暴力・DV 2 更年期・老年期の健康と看護 1) ホルモンの変化 2) 閉経 3) 更年期症状 4) 骨盤臓器脱 5) 膣炎		
15	終了試験			

科目名	母性看護学Ⅰ		時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回	
科目の概要	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康な母子と家族に対して必要な看護を学ぶ。			
目標	1 妊婦、産婦、褥婦、新生児のアセスメントに必要な知識を習得する 2 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の対象とその家族に必要な看護を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス 平澤美恵子・村上睦子 インターメディカ 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 メヂカルフレンド社			
技術経歴録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1～4	正常な妊娠経過と看護	1 妊娠経過と胎児の発育 2 妊娠期の身体的変化、マイナートラブル 3 妊婦と家族の心理・社会的変化 4 妊婦の健康生活 5 健康の維持・増進への支援、セルフケア教育		専任教員 講義・演習
5～7	正常な分娩経過と看護	1 分娩経過と胎児の健康状態 2 産婦の心理・社会的状態 3 分娩各期の産婦の基本的ニーズと看護		
8～10	正常な産褥経過と看護	1 産褥期の身体的特徴 1) 退行性変化 2) 進行性変化 2 褥婦と家族の心理的・社会的変化 3 身体機能の回復への支援 4 褥婦の日常生活とセルフケア 5 育児技術、母乳育児への支援 6 親子の愛着形成および家族関係再構築の支援		
11～14	新生児の生理と看護	1 新生児の生理と身体機能 2 出生直後の看護 3 新生児期の看護		
15	終了試験			

科目名	母性看護学Ⅱ		時期	2年次 後期		
講師	医師 臨床助産師 看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回		
科目の概要	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期のハイリスクな母児、家族に対して必要な看護を学ぶ。 妊産褥婦および新生児を対象とした看護技術を学ぶ。					
目標	1 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常に伴う看護について理解する 2 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の対象に必要な看護技術を習得する					
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力					
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス 平澤美恵子・村上睦子 インターメディカ 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 メヂカルフレンド社					
技術経歴録 演習項目	レベルⅠ 新生児の沐浴・清拭					
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容		方法	担当講師	
1～3	妊娠の異常と看護	1 高年・若年妊婦 4 妊娠貧血 7 妊娠高血圧症候群 10 常位胎盤早期剥離	2 多胎 5 不育症、切迫流・早産 8 妊娠糖尿病	3 妊娠悪阻 6 感染症 9 前置胎盤	講義・演習	臨床助産師1
4・5	分娩の異常と看護	1 前期破水 3 胎児機能不全 5 帝王切開術	2 微弱陣痛・過強陣痛 4 分娩時異常出血		講義・演習	臨床助産師1
6～8	産褥の異常と看護	1 子宮復古不全 4 精神障害 6 死産、障害をもつ新生児を出産した褥婦の看護	2 産褥熱 5 帝王切開術後	3 乳房トラブル	講義・演習	臨床助産師2
9	新生児の異常と看護	1 早産児 3 新生児ビタミンK欠乏症	2 高ビリルビン血症		講義・演習	臨床助産師2
10	新生児蘇生技術	NCPR		講義	医師	
11～14	母性看護に関連した技術	1 妊婦 腹囲・子宮底測定 レオポルド触診法 胎児心音聴取 胎児心拍数聴取 2 産婦 産痛緩和 3 褥婦 子宮復古の観察 産褥体操 ポジショニング・ラッチオン 4 新生児 全身の観察 清拭・沐浴 オムツ交換 授乳		講義・演習 レベルⅠ 28 演習: 妊婦計測 褥婦観察 新生児観察	専任教員	
15	終了試験				専任教員	

科目名	母性看護学Ⅲ		時期	2年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、回数	1単位(15時間)、8回	
科目の概要	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象とその家族を理解し、看護過程を展開する。			
目標	1 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における看護過程の特徴を理解する 2 対象となる妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族を関連させた看護過程を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を实践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 メヂカルフレンド社			
技術経験録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内容	方法	
1	母性看護学における看護過程	母性看護学における看護過程の特徴 全体論的な対象の把握、家族・適応過程 健康の保持・増進への看護 ウェルネス志向の看護診断について	講義・演習	
2	妊娠期にある対象の看護過程	妊娠中期 妊婦の看護過程 高齢産婦の事例の展開		
3	分娩期にある対象の看護過程	分娩第1期 産婦の看護過程 早期破水がみられた産婦の事例展開		
4～6	産褥期にある対象の看護過程	褥婦の看護過程 1 経膣分娩をした初産婦の事例展開 2 帝王切開術を受けた経産婦の事例展開		
7	新生児期にある対象の看護過程	新生児の看護過程 正常分娩で出生した新生児の事例展開		
8	終了試験			

科目名	精神看護学概論		時期	1年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	精神看護の二側面の一つである精神保健を中心に、精神看護の意義と目的を理解するために、精神の健康の概念や心の機能と発達について学ぶ。さらに、精神保健医療福祉の変遷および障害をもつ人を支える法律について学ぶ。			
目標	1 精神保健の基本と、保持・増進に向けた活動について理解する 2 精神看護の対象の理解と支援のための概念について理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学②, 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉			
技術経緯録 演習項目				
評価	筆記試験、演習、出席状況、課題レポートなど総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1～3	精神の健康の概念 精神保健の考え方	1 精神の健康の定義 2 心と脳の機能 3 精神保健医療福祉の改革ビジョン 4 精神障害の一次予 防・二次予防・三次予防 5 リカバリーと精神医療		講義
4・5	心のはたらきと人格形成	1 精神力動(フロイト,S)と防衛機制 2 転移感情		講義
6・7	危機(クライシス)	1 危機の概念・予防・対処 1) 危機受容(フィンク,S,L) 2) 危機理論(アギユララ,D.C、キャプラン,G) 2 心的外傷(トラウマ) 3 ストレスコーピング		講義・演習
8～10	精神保健医療福祉の変遷と看護	1 諸外国および日本における精神医療の変遷 2 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)の基本的な考え方 3 精神障害と法制度		講義
11	家族と精神の健康	1 家族とは (夫婦関係、親子関係、家族システム)		講義
12	暮らしの場と精神の健康	1 学校と精神の健康 (いじめ、不登校、ひきこもり、自殺) 2 職場・仕事と精神の健康 (ハラスメント、アディクション、自殺)		講義
13・14	精神の健康とマネジメント	1 リエゾン精神看護 2 感情リテラシーと看護師 3 災害時の精神保健医療活動		講義
15	終了試験			

科目名	精神看護学 I		時期	2年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回	
科目の概要	精神障害の中で入院患者の割合の多い代表的な疾患(統合失調症、気分障害など)の特徴と看護について学ぶ。また患者-看護師関係構築のための治療的コミュニケーション技法の修得および自己洞察のための再構成について学ぶ。			
目標	1 精神の健康障害のある人の健康状態に応じた看護について理解する 2 主な精神疾患・障害の特徴と看護について理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学②, 医学書院			
技術経緯録 演習項目				
評価	筆記試験、演習、出席状況、課題レポートなど総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1～3	精神看護の対象の理解と支援のための概念	1 精神を病むということ 2 精神症状と状態像		講義
4～7	主な精神疾患・障害の特徴と看護	1 統合失調症 2 気分障害 3 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害 4 パーソナリティ障害 5 知的能力障害 6 発達障害 7 てんかん		講義
8～10	精神看護の対象理解の概念と支援の実際	1 オレム・アンダーウッド看護モデル:セルフケアへの援助(食物、水分の摂取、呼吸、排泄、清潔と身だしなみ、活動と休息、対人関係、安全)		講義
11～14	援助関係の構築	1 精神科コミュニケーション技法 2 H.E,パプロウ:人間関係論(患者-看護師関係、プロセスレコードの活用)		講義および演習 演習:コミュニケーション技法、プロセスレコード
15	終了試験			

科目名	精神看護学Ⅱ		時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師	単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回	
科目の概要	精神に障害をもつ人の生きにくさを理解しながら、理論を用いて患者の自己決定能力やセルフケア能力向上を見据えた看護について学ぶ。また、精神疾患の治療および看護の実際について学ぶ。			
目標	精神疾患・障害がある人の人権と安全を守り、回復を支援する看護について理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1.豊かな人間力 ☑ 2.看護を実践する力 ☑ 3.探求する力 ☑ 4.連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学②, 医学書院			
技術経歴録 演習項目				
評価	筆記試験			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容	方法	
1・2	回復を助けるためのかわり	1 回復の意味 (レジリエンス・リカバリ・ストレングス・エンパワメント) 2 入院治療の目的と意味 3 治療的環境(物理的・心理的・社会的)	講義	
3～5	精神疾患・障害がある患者の治療と看護	1 薬物療法 2 心理・社会的療法 (精神療法、認知行動療法、社会生活技能訓練 SST、作業療法) 3 修正型電気けいれん療法 4 社会復帰・社会参加への支援 (精神科リハビリテーションの概念、精神科デイケア・精神科ナイトケア、精神科訪問看護、ACT、家族会) 5 長期入院患者の退院支援 6 社会資源の活用とソーシャルサポート	講義	
6～8	安全な治療環境の提供	1 患者の権利擁護(アドボカシー)と自己決定の尊重 2 入院患者の基本的な処遇 3 病棟環境の整備と行動制限 4 自殺、自殺企図、自傷行為、無断離院 5 攻撃的行動、暴力、暴力予防プログラム	講義	
9・10	精神科の治療と身体のケア	1 精神療法としての身体ケア 2 抗精神病薬の有害反応と看護 3 生命の危険を伴う有害反応と看護	講義	
11～13	精神科における身体のケアの実際	1 患者の回復段階に応じた身体のケア (急性期、回復期、慢性期) 2 身体合併症のアセスメントとケア (メタボリックシンドローム、DM、るい瘦、肺炎、骨折、窒息、悪性新生物) 3 日常生活における身体ケア(足、皮膚、口腔、便秘、睡眠)	講義	
14	精神科における多職種連携	1 多職種連携と看護の役割 (医師・歯科医師、保健師、精神保健福祉士作業療法士、精神保健福祉相談員、ピアサポーター、薬剤師、栄養士、臨床心理技術者)	講義	
15	終了試験		専任教員	

科目名	精神看護学Ⅲ		時期	2年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師	単位(時間)、回数	1単位(15時間)、8回	
科目の概要	慢性期にある統合失調症、気分障害の対象を事例にした看護過程を実際に展開し、アセスメントや援助計画を立案することにより、基礎的知識・技術を深める			
目標	1 精神科における代表的な疾患の看護過程に必要な知識と方法を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト				
技術経路録 演習項目	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学②, 医学書院 全人的視点にもとづく精神看護過程第2版, 医歯薬出版株式会社			
評価	筆記試験、演習、出席状況、課題レポートなど総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1	精神看護における看護過程	1 精神科におけるヘルスプロモーション型看護過程について		講義
2・3	うつ病患者の看護過程の展開	1 うつ状態にある患者に対し、ゴードンの11の機能的健康パターンを活用して看護過程を展開する		演習:看護過程
4		発表		
5・6	統合失調症患者の看護過程の展開	1 統合失調症(慢性期)患者に対し、ゴードンの11の機能的健康パターンを活用して看護過程を展開する		演習:看護過程
7		発表		
8	終了試験			

科目名	看護研究		時期	3年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師	単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回	
科目の概要	看護実践の質を高め、科学的根拠に基づく看護実践を行うために、看護研究の基礎を学ぶ。また、自己の看護実践の振り返り(ケーススタディ)を通して、研究的視点と態度を学ぶ。			
目標	1 看護における研究の意義と方法がわかる 2 研究のプロセスとその進め方がわかる 3 研究の一連の過程をとおして、科学的思考と研究的態度をもつことができる			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社			
技術経緯録 演習項目				
評価	提出物の内容・提出状況、研究論文の内容・看護研究発表の実際等より総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1~2	看護における研究の意義	1 研究とは何か 2 看護研究の意義 3 リサーチクエスト 4 文献検索 5 看護研究と倫理 6 研究デザイン		講義
3	事例研究の意義・目的	1 事例研究とは ・ ケーススタディとは 2 事例研究の進め方 3 事例研究と倫理的配慮		講義
4~5	事例研究の計画	1 研究のテーマの設定 2 研究計画書の作成 3 文献検索の方法		講義
6~10	事例研究の実施	1 研究計画書の検討 2 文献検索・文献検討 ・ 文献の引用方法 3 論文の作成 4 抄録の作成 5 口演・スライド作成の留意点		講義・演習
11~13	研究発表準備	1 発表原稿作成 2 スライド作成 3 発表会の運営準備と役割 4 発表練習		講義・演習
14~15	研究発表会	1 発表 2 質疑応答 3 発表会の運営		演習

科目名	看護管理と医療安全		時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員 病院看護管理者 セーフティマネージャー		単位(時間)回数	1単位(30時間)15回
科目の概要	組織として看護を提供する際に必要な看護管理について、基盤となる知識と技術、マネジメント能力を学ぶ。また、安全な看護を提供するために必要な基本的知識と技術を学ぶ。			
目標	1 看護マネジメントに必要な知識を修得する 2 看護を取り巻く諸制度の概要を理解する 3 医療安全に向けた日本の対策と組織の安全管理の仕組みを理解する 4 事故発生のメカニズムと防止対策、事故分析の方法を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1.豊かな人間力 ☑ 2.看護を実践する力 ☑ 3.探求する力 ☑ 4.連携・協働する力			
使用テキスト	①系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(1) 看護管理 ②ナースング・グラフィカ 医療安全 メディカ出版 ②医療安全ワークブック 川村治子 医学書院			
技術修得記録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 演習内容 出席状況から総合的に判断する			
授 業 計 画				
回数	項目	内容	方法	担当講師
1・2	看護ケアのマネジメント	1 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2 患者の権利尊重、安全管理 3 多職種協働・連携・チーム医療 4 看護業務の実践	講義	病院看護 管理者
3～5	看護職のキャリアマネジメント 看護サービスのマネジメント	1 キャリアとキャリア形成 2 看護職のキャリア形成 3 看護専門職としての成長 4 ストレスマネジメント 1 看護サービスのマネジメント 2 組織目的達成のマネジメント 3 看護サービス提供仕組みづくり 4 人材のマネジメント 5 施設・設備環境、物品、情報のマネジメント 6 組織におけるリスクマネジメント 7 サービスの評価		
6	マネジメントに必要な知識と技術	1 組織とマネジメント 2 リーダーシップとマネジメント 3 組織の調整		
7	看護を取り巻く諸制度	1 看護管理に関する法令 2 医療制度		
8～10	医療安全の取り組みと医療の質の評価	1 医療安全の重要性・その取り組み 2 医療事故等の定義・分類 3 医療事故の報告制度 4 医療の質の評価	講義・演習	セーフティ マネージャー
11・12	事故発生のメカニズム、リスクマネジメント 看護業務の安全を脅かすリスクと対策	1 事故発生のメカニズム 2 事故分析・事故対策 3 KYT の実際 1 看護業務と事故発生要因 2 医療事故の種類と安全対策 3 看護職の業務上の危険と対策		
13・14	看護学生の実習と安全	1 実習における事故と法的責任 2 実習中の事故発生時の学生の対応 3 事例によるリスクアセスメント(実習で遭遇する場面) ・シャワー浴介助 ・足浴 ・移乗介助 等	講義・演習	専任教員
15	終了試験			専任教員

科目名	災害看護と国際看護		時期	2年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員 医師 臨床看護師		単位(時間)回数	1単位(30時間)15回
科目の概要	災害急性期から慢性期の各期における対象への看護及び関係機関との連携等災害看護の基礎を学ぶ。 国際社会における看護の必要性を理解し、国内外における国際協力と看護活動を学ぶ。			
目標	1 災害及び災害看護に必要な基礎知識を修得する 2 災害時における看護の特徴及び災害各期の看護について理解する 3 国際看護における国際協力の仕組みと国際看護の対象について理解する 4 世界の健康問題、諸外国の看護を理解し、看護の国際協力について考える			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院			
技術経験録 演習項目				
評価	筆記試験、課題レポート			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容	方 法	担当講師
1	総論	病院の災害医療の対策と現状	講義	医師
2~4	災害及び災害看護に関する基礎的知識	1 災害の歴史 2 災害の定義 3 災害の種類と健康障害 4 災害医療の特徴 5 災害サイクル各期の看護の特徴 5 災害看護と法律 6 災害時のこころの変化とケア ・被災者 ・遺族 ・救援者	講義	専任教員
5~7	災害サイクルに応じた看護活動 被災者特性に応じた災害看護	1 災害看護の基本姿勢 2 災害時の地域アセスメント 3 災害サイクル各期における看護活動 4 避難所・仮設住宅・復興住宅における看護 5 災害関係機関の支援体制 6 災害ボランティア 1 被災者特性に応じた災害看護 ・子ども ・妊産婦 ・高齢者 ・障がい者 ・慢性疾患患者	講義	臨床看護師
	看護支援活動の実際	1 机上トリアージ 2 応急処置と搬送	講義・演習	臨床看護師
8	国際看護学の現状と課題	1 国際看護学とは ・世界の健康問題の現状 ・国際看護の対象	講義	専任教員
9・10	国際協力と看護	1 国際協力の仕組み ・国際連合システム ・NGO ・ODA 2 開発協力と看護 ・貧困と健康問題・対策		
11~13	文化を考慮した看護	1 日本における在留外国人への看護 2 異文化の理解 3 紛争地における看護	講義・演習	専任教員
14	国際看護活動の実際	1 国際看護活動の展開プロセス ・活動の実際	講義・演習	外部講師 (JICA)
15	終了試験			専任教員

科目名	臨床看護の実践Ⅱ		時期	3年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回	
科目の概要	事例の状況に応じ、予測性・個性をもってアセスメントすることができ、必要かつ安全な看護を考え実践する方法を学ぶ			
目標	1 看護実践場面に応じた安全・安楽、倫理的配慮を考慮した看護を実施する 2 複数患者の状態・状況のアセスメントから、優先順位の根拠を考え、場面に応じた臨床判断・看護を実施する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践(1)看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(4)臨床看護総論 医学書院 ナーシンググラフィカ 統合分野 医療安全 メディカ出版			
技術経緯録 演習項目				
評価	課題レポート、演習、出席状況などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1	多重課題と優先順位	1 多重課題と優先順位 2 多重課題発生時の対処方法 3 SBARを用いた報告		講義
2	看護倫理に基づく看護実践	1 看護倫理と看護実践		
3~7	複数患者の事例展開	1 複数患者の事例理解 1) 事例患者の状態・状況把握 2 優先順位の判断・根拠 3 1 勤務帯の行動計画立案 1) 時間管理と業務の組み立て		講義・演習
8~12	複数患者の看護実践	1 事例患者の状態把握と状況判断 2 患者に応じた看護実践の具体化 1) 安全性・安楽性・自立 2) 倫理的配慮 3 緊急性・優先順位を考えた判断と安全・安楽な看護実践 4 突発的事案発生時の判断と対応 1) 協力・支援要請 2) 報告・連絡・相談		講義・演習
13~15	様々な患者の状況に応じた看護実践	1 事例患者の状況に応じた看護実践 1) 安全・安楽の視点 2) 倫理的視点 3) 時間管理		演習